

展覧会プレスリリース

パリに生きた画家たち

マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景

2022年10月28日(金) ≫ 2023年2月26日(日)



アルベール・マルケ 《ボン・ヌフとサマリテーヌ》1935年頃 油彩・キャンヴァス 個人蔵

M ヤマザキマザック美術館
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART

〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1-19-30
地下鉄東山線「新栄町」1番出口直結
TEL : 052-937-3737

特別展

「パリに生きた画家たち

マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景」のご案内

ヤマザキマザック美術館は、初代美術館館長山崎照幸（1928-2011）の収集したフランス美術300年の流れを一望できるコレクションを公開するための美術館として、2010年4月23日にオープンいたしました。今年で開館12年となります。美術館の母体である「ヤマザキマザック株式会社」は、金属部品加工の工作機械を製造するグローバルカンパニーです。工作機械は、先端産業である自動車、航空機、船舶、人工衛星や、時計、携帯電話、人工骨などの金属部品を加工する機械で、世界中の製造業の基盤を支えています。

当館は、10月28日から2023年2月26日まで「パリに生きた画家たち マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景」展を開催いたします。

この展覧会では、パリを愛し、パリを描き続けた画家たち、アルベール・マルケ（1875-1947）、モーリス・ユトリロ（1883-1955）、佐伯祐三（1898-1928）、荻須高德（1901-1986）の作品を当館の所蔵作品3点や山崎照幸が愛蔵していた荻須高德《風景》を含めた52点の作品によってご紹介いたします。荻須高德が山崎照幸夫妻に送った書状も併せて展示し、画家とコレクターの交流の一端もご紹介いたします。個性あふれる四人の画家たちの創作世界を堪能していただければ幸いです。

2022年8月

ヤマザキマザック美術館

本紙の内容

企画展概要

企画主旨

見どころ

主な出品作品

会期中のイベント情報

情報掲載用画像・プレゼント用招待券利用申込書

美術館案内

企画展概要

1. 展覧会名：パリに生きた画家たち マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景
2. 会期：2022年10月28日(金)～2023年2月26日(日)
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては会期等が変更となる場合があります。
最新情報につきましては当館ホームページの「お知らせ」欄でご確認ください。
3. 会場：ヤマザキマザック美術館 5階展示室
461-0004 愛知県名古屋市東区葵1-19-30(地下鉄東山線「新栄町」下車/1番出口直結)
TEL 052-937-3737 URL www.mazak-art.com
4. 開館時間：平日 10:00～17:30 / 土日祝 10:00～17:00 ※入館は閉館の30分前まで
5. 休館日：月曜日※月曜日が祝日の場合は開館・翌平日休館
年末年始（12月29日～1月4日）
6. 入館料：一般1,300円(10名様以上1,100円)、小・中・高生500円、小学生未満無料
〔音声ガイド無料サービス〕
7. 主催：ヤマザキマザック美術館、中日新聞社
協力：株式会社カセットミュージアム
後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、愛知県教育委員会、
岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、名古屋市教育委員会、
名古屋市文化振興事業団
8. 記者発表会：2022年10月28日(金) 11:15～12:15
※11:00より美術館1階にて受付開始
※当日13:00～17:00の間で個別に対応することも可能です。
別途ご相談ください。
9. 連絡先
ヤマザキマザック美術館
展覧会担当学芸員 吉村有子 Yuko_Yoshimura@mazak.co.jp
広報担当 西川由佳里 Yukari_Nishikawa@mazak.co.jp
〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30
TEL 052-937-3737 FAX 052-937-3789

企画主旨

このたび、ヤマザキマザック美術館におきまして、「パリに生きた画家たち マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景」展を開催いたします。

パリを愛し、パリを描き続けた画家たち、アルベール・マルケ（1875-1947）、モーリス・ユトリロ（1883-1955）、佐伯祐三（1898-1928）、荻須高德（1901-1986）。パリやその近郊は、マルケ、ユトリロにとっては慣れ親しんだ愛着のある街、佐伯、荻須にとっては、「絵を描こうとする喜びをよびさます」憧れの街で、尽きることのない創造の源泉でした。

この展覧会は、愛知県美術館、稲沢市荻須記念美術館、名古屋市美術館、BBプラザ美術館、ポーラ美術館、四日市市立博物館、個人ご所蔵家の所蔵作品に、ヤマザキマザック美術館所蔵のマルケ《パリ、ルーヴル河岸》、ユトリロ《サノワの風車》、《マルカデ通り》、フランス美術の収集によってヤマザキマザック美術館の礎を築いた初代館長（ヤマザキマザック株式会社前会長）山崎照幸が愛蔵していた荻須高德《風景》を合わせ、マルケ作品 7 点、ユトリロ作品 10 点、佐伯作品 8 点、荻須作品 27 点、合わせて 52 点の作品をご紹介します*。

19 世紀フランスの邸宅を思わせる当館の展示室に 20 世紀初頭から 1970 年代にいたるまでのパリやその近郊を描いた作品を展示。4 人の画家たちそれぞれの作品の魅力を堪能して頂けるのはもちろんのこと、1 人の画家が時を違えて同じ場所を描いた 2 点の作品の表現の違い、異なる画家が同じ場所を描いた作風の違いも楽しんで頂けます。また、荻須が山崎照幸夫妻に送った書状も併せて展示し、画家とコレクターの交流の一端もご紹介いたします。コロナ禍で海外旅行もままならない現在ではございますが、絵画の世界でパリの風景を堪能して頂ければ幸いです。

*出品作品のうち、四日市市立博物館所蔵の佐伯祐三《エッフェル塔の見える街角》は前期のみの出品となります。

荻須高德の版画作品 10 点は会期半ばで展示替を行い、前期 5 点後期 5 点の出品となります。

パリに
生きた
画家たち

Albert Marquet
Maurice Utrillo
Yuzō Saeki
Takanori Oguiss

見どころ

① 四人の画家たちが描き出すパリ風景の優品が大集合！

マルケが窓から見下ろして描いたパノラミックなパリ風景、パリに生まれ育ったユトリロが描く哀愁漂うパリの下町モンマルトルの風景、佐伯が短い人生を燃やし尽くすかのように激しい筆触と暗い色彩で描いたパリの街角、荻須が明快な構成と落ち着いた色調で描き出すパリの街並み。いずれ劣らぬ優品が展示室に並びます。

② 比較して楽しむ！

マルケが自宅のアパートから眺めたセーヌ川にかかる橋「ポン＝ヌフ」。《ポン・ヌフとサマリテーヌ》と《ポン・ヌフ夜景》ではポン＝ヌフが昼と夜で違った表情を見せています。アルコール中毒になったユトリロが静養していた診療所があったパリ近郊のサノワ。18世紀の古い風車で有名なこの街の風景をユトリロは繰り返し描いており、この展覧会にはサノワを描いた2点の作品《サノワの風車》と《サノワの製粉場》が出品されます。モンマルトルの有名な風車「ムーラン・ド・ラ・ガレット」。この風車は数多くの画家が描いていますが、ユトリロと荻須高德も《ムーラン・ド・ラ・ガレット》と《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》で異なる角度から描いています。表現の違い、個性の違いを比べて頂くと、より展覧会を楽しんで頂けます。

③ 山崎照幸愛蔵の荻須高德《風景》を初公開！

当館初代館長、山崎照幸は同時代の日本人作家にも興味を持っていました。愛知県稲沢市出身の荻須高德もそのひとりです。この展覧会では山崎照幸が愛蔵していた荻須高德《風景》を初公開いたします。パリ近郊の田園風景を描いたこの小品にはパリの街路を描いた作品とは異なるのびやかな美しさを感じられます。

④ 山崎照幸夫妻宛の荻須高德の書簡を初公開！

荻須高德が山崎照幸夫妻に出した礼状。パリでの邂逅を懐かしみ、山崎照幸夫人が帰国後荻須高德夫妻に送った贈答品へのお礼が述べられています。画家とコレクターとの交流がうかがえる貴重な資料です。



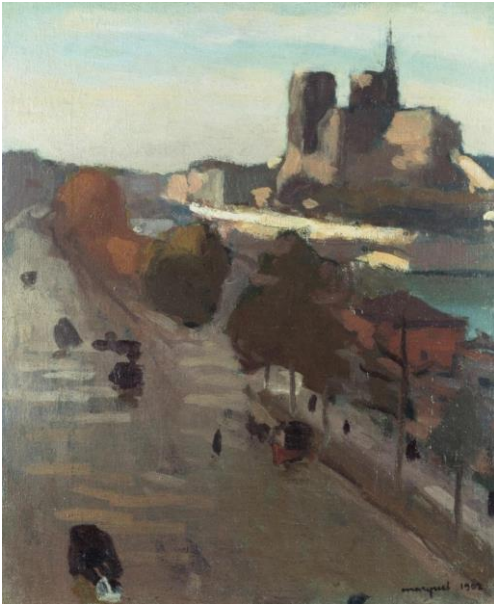
PRESS RELEASE

パリに生きた画家たち マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景

主な出品作品

※ 荻須高德作品は著作権の関係でプレスリリースには掲載していません。

荻須高德作品につきましては、9 月末に完成予定の展覧会チラシには 2 点を掲載予定、展覧会オープン日から販売予定の展覧会パンフレットには版画作品を除く 17 点を掲載予定ですので、ご参照ください。



アルベール・マルケ《ノートルダムの後陣》1902年 愛知県美術館



アルベール・マルケ《パリ、ルーヴル河岸》1906年 ヤマザキマザック美術館



アルベール・マルケ《ノートルダム 曇天》1924年頃 BBプラザ美術館



アルベール・マルケ《ボン・ヌフ夜景》1938年 個人蔵



モーリス・ユトリロ《マルカデ通り》1911年 ヤマザキマザック美術館



モーリス・ユトリロ《ラパン・アジール》1913年頃 名古屋市美術館



モーリス・ユトリロ《サノワの風車》1910年頃 ヤマザキマザック美術館



モーリス・ユトリロ《サノワの製粉場》1912年頃 ポーラ美術館



モーリス・ユトリロ《サン＝ヴァンサン通りとサクレ＝クール寺院》
1916年頃 個人蔵



佐伯祐三《洗濯屋》1925年 個人蔵



佐伯祐三《プチ・レストラン》1927年 個人蔵



佐伯祐三《リュ・デュ・シャトー》1927年 ポーラ美術館

会期中のイベント情報

- *新型コロナウイルス感染防止対策として、美術館入口での検温、マスクの着用、ソーシャル・ディスタンスの保持にご協力ください。
- *新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはやむなく中止する場合があります。
最新情報につきましては当館ホームページの「お知らせ」欄でご確認ください。

スペシャルギャラリートーク

本展出品美術館の学芸員諸氏によるギャラリートークです。優れたエコール・ド・パリのコレクションで知られる名古屋市美術館の学芸員、森本陽香氏と、充実した荻須高德作品のコレクションで知られる稲沢市荻須記念美術館の学芸員、河合志穂氏をお迎えし、作家や作品について所蔵館ならではの興味深いお話をお伺いいたします。

予約 お電話にて承ります。

定員 15名（先着順）

参加費 無料 ただし要本展鑑賞券※半券でも可

参加方法

本展の鑑賞券をお求め・ご提示の上、お名前をお教えてください。

参加証をお渡しいたしますので、10時25分までに美術館1階ブルデルの彫刻《果物を持つ裸婦》の前にお集まりください。

<p>2022年 12.4 日 10:30~11:30</p>	<p>「パリの街と 画家たち」 森本 陽香氏 (名古屋市美術館学芸員)</p>	
<p>2023年 1.29 日 10:30~11:30</p>	<p>「荻須高德 のパリ」 河合 志穂氏 (稲沢市荻須記念美術館学芸員)</p>	

ガイドツアー

会期中第2・第4土曜日の10:30~11:30

2022年 ...11月12日、26日、12月10日、12月24日

2023年 ...1月14日、1月28日、2月11日、2月25日

予約 不要

定員 10名(先着順)

参加費 無料ただし要当日鑑賞券

ナイトミュージアム

「サクソフォンとギターで聴く クラシカルなパリ」

- ・本展覧会の当日券付き(一般申込者限定)
- ・事前申込みが必要です。お申込みの方法は11月30日に当館ホームページ「お知らせ」欄にてお知らせいたします。なお、友の会会員様には先立って封書にてご案内いたします。

開催日時 12月17日(土) 17:45受付開始 / 18:15開演 / 19:15終演予定

開催場所 ヤマザキマザック美術館5階展示室

出演者 佐野 功枝 [サクソフォン]、山田 陽介 [ギター]

参加費 友の会会員¥2,000(税込) 一般¥4,500(税込)

曲 目 F. クープラン / 恋のうぐいす

P. モーリス / プロバンスの風景より「愛の歌」

E. サティ / ピカデリー

など

※曲目は都合により変更になる場合がございます。

佐野 ^{のりえ} 功枝 [サクソフォン]

愛知県立芸術大学卒業。

ソロリサイタルのほか、2枚のソロアルバムリリース。

サクソフォンを雲井雅人氏に師事。名古屋アカデミックウインズ代表。金城学院大学及び名古屋音楽大学各非常勤講師。

山田 陽介 [ギター]

名古屋芸術大学卒業。

ソロリサイタルのほか、ギターアンサンブル、声楽、他楽器との共演などで活動。ギターを井深和弘、酒井康雄、岩永善信の各氏に師事。名古屋芸術大学非常勤講師。中部日本ギター協会副会長。



特別展「パリに生きた画家たち マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景」(2022/10/22～8/28)

情報掲載用画像・読者プレゼント用招待券利用申込書

- ・「パリに生きた画家たち マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景」展の情報掲載の際に、下記の画像をご使用いただくことができます。※展覧会終了後は使用することができません。
- ・画像をご使用の際は必ずキャプションを併記願います。
- ・画像はトリミングや字のせなどの加工をせずにそのままの形でお使いください。

貴社名			ご担当者名							
媒体名	✓をご記入ください。 <input type="checkbox"/> 紙媒体 <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> その他 ()									
画像番号	次ページの画像一覧をご参照のうえ、掲載を希望される画像の番号に○をお付けください。 担当者が申込書を確認の後、データをご提供致します。									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ご住所	〒									
ご連絡先	TEL	FAX			MAIL					
ご掲載予定日	*保管用に見本誌を1部お送りいただけますと幸いです。									

- ・画像を使用して展覧会情報をご掲載いただける場合、読者プレゼント用に招待券をご提供可能です。

下記に○を付けてご回答ください。

- 招待券の提供を (希望する ・ 希望しない)
- └→ 必要枚数は (3組6名分 ・ 5組10名分)

掲載用展覧会概要文 *記事作成の際にご活用ください。

[300文字程度]

パリを愛し、描き続けたアルベール・マルケ(1875-1947)、モーリス・ユトリロ(1883-1955)、佐伯祐三(1898-1928)、荻須高德(1901-1986)。パリやその近郊は、マルケ、ユトリロにとっては慣れ親しんだ愛着のある街、佐伯、荻須にとっては「絵を描こうとする喜びをよびさます」憧れの街で、尽きることのない創造の源泉でした。この展覧会では、マルケ作品7点、ユトリロ作品10点、佐伯作品8点、荻須作品27点、合わせて52点の作品を展示。20世紀初頭から1970年代にいたるまでのパリやその近郊を描いた絵画・版画をお楽しみ頂けます。また、当館コレクションの礎を築いた初代館長山崎照幸夫妻に荻須が送った書状も併せて展示し、画家とコレクターの交流の一端もご紹介します。

[100文字程度]

パリを愛し、描き続けたアルベール・マルケ、モーリス・ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德の作品52点を紹介する展覧会。20世紀初頭から1970年代にいたるまでのパリやその近郊を描いた絵画・版画をお楽しみいただけます。

お問い合わせ先：ヤマザキマザック美術館 企画課 広報担当 西川 由佳里
 TEL 052-937-3737 / FAX 052-937-3789 / MAIL Yukari_Nishikawa@mazak.co.jp

*ご記入いただいた個人情報は、本件におけるご連絡または今後の催事情報のご案内のみに使用し、許可なく第三者に開示することはありません。

1		6	
<p>キャプション</p> <p>アルベール・マルケ《ノートルダムの後陣》1902年 油彩・キャンヴァス 愛知県美術館</p>		<p>キャプション</p> <p>モーリス・ユトリロ《サン＝ヴァンサン通りとサクレ＝クール寺院》1916年頃 油彩・パネルに貼り付けたキャンヴァス 個人蔵</p>	
2		7	
<p>キャプション</p> <p>アルベール・マルケ《ノートルダム 曇天》1924年頃 油彩・キャンヴァス BBプラザ美術館</p>		<p>キャプション</p> <p>佐伯祐三《洗濯屋》1925年 油彩・キャンヴァス 個人蔵</p>	
3		8	
<p>キャプション</p> <p>アルベール・マルケ《ポン・ヌフとサマリテヌ》1935年頃 油彩・キャンヴァス 個人蔵</p>		<p>キャプション</p> <p>佐伯祐三《プチ・レストラン》1927年 油彩・キャンヴァス 個人蔵</p>	
4		9	
<p>キャプション</p> <p>モーリス・ユトリロ《ムーラン・ド・ラ・ガレット》1910年頃 油彩・厚紙 ポーラ美術館</p>		<p>キャプション</p> <p>佐伯祐三《リュ・デュ・シャトー》1927年 油彩・キャンヴァス ポーラ美術館</p>	
5		10	
<p>キャプション</p> <p>モーリス・ユトリロ《ラパン・アジュール》1913年頃 油彩・キャンヴァス 名古屋市美術館</p>		<p>キャプション</p> <p>ポスター画像</p>	

美術館ご紹介

ヤマザキマザック美術館は、ヴァトー、ブーシェ、フラゴナール、シャルダンといったフランスのオールドマスターをはじめとするロココの時代から、ロマン主義を代表するドラクロワ、新古典主義のアングル、写実主義、印象派、エコール・ド・パリ等、18世紀から20世紀に至るフランス美術300年の流れを一望する構成となっています。

また19世紀末にフランスを中心に花開いたアール・ヌーヴォーの代表的な作家であるガレをはじめとする、様々な作家達のガラス工芸品、家具を展示しています。

棚や椅子、テーブル、暖炉、壁面フレームと一部屋まるごと完備したアレクサンドル・デュマのダイニングルームをはじめ、マジョレルやガレといった作家たちの家具は、往時の雰囲気そのままに、部屋を訪れたお客様が、ゆっくりと作品に向き合えるよう心がけて、展示しています。ガラス工芸においては、工芸の枠を超えて芸術表現に挑んだガレの晩年の作品を多数所蔵しており、その充実した作品群は、日本の美術館が所蔵するガレのコレクションの中でもとりわけ注目される存在です。



PRESS RELEASE

パリに生きた画家たち マルケ、ユトリロ、佐伯祐三、荻須高德が見た風景

 ヤマザキ マザック 美術館
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART
〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30
TEL:052-937-3737 FAX : 052-937-3789